



主な内容

- 特集—— 女性アスリートサポート外来 ～女性アスリートの健康課題に対応～
トピックス—— 本学と岩手県立花巻北高校、合同会社SPACE VALUEの3者において
連携講座協定を結びました
トピックスプラス—— 医療安全シンポジウム2024が行われました
募金状況報告
フリーページ—— すこやかスポット歯学講座No.25
「口腔内スキャナーによる光学印象法」
表紙写真：消火器取扱訓練（関連記事P.6）

特集

女性アスリートサポート外来 ～女性アスリートの健康課題に対応～

内丸メディカルセンターでは、競技レベルを問わず、全ての女性アスリートが安心してスポーツに取り組むことができるよう、令和6年1月に女性アスリートサポート外来を開設しました。

専門医にお話を伺いましたので当外来の支援内容、女性アスリートが抱える健康課題についてご紹介します。

はじめに

女性アスリートサポート外来は、女性アスリートの特有の健康課題に対応するための専門外来です。運動による健康問題や栄養についてのアドバイス、月経に伴う健康問題、コンディショニング等のサポートなどを行います。

女性はライフステージに応じて身体コンディションが大きく変化します。継続してスポーツを行う女性アスリートのなかには、貧血、月経困難症や揮発月経、妊娠・出産・産後の身体の変化、過多月経、更年期障害など様々な健康問題がみられます。トップアスリートではこれらの問題に対応する体制が構築されてきていますが、国内トップレベル・強化指定選手以外の多くの女性アスリートにおいては、相談窓口の少なさ、受診までのハードルの高さなどが指摘されています。このことを踏まえ、令和6年1月に内丸メディカルセンター総合診療科内に女性アスリートサポート外来が開設されました。

外来の概要

■診療日

毎週木曜日の午後（内科・婦人科）
第1・4土曜日の午前（内科のみ）

■場所

内丸メディカルセンター外来棟3階 総合診療科

■予約・受診

①附属内丸メディカルセンター内 紹介予約センターに
電話予約

電話番号 019-613-6111（内線 2391）

②HPから問診票をダウンロードをして記入し受診時に持参
（当日、外来受付で記入することもできます）

※医療機関からのご紹介の場合はFAXでのお申込みをお願いします。

③初診は基本的に内科医（JSPO 公認スポーツドクター）
が行い、必要に応じて、採血、骨密度検査等を行う

④再来は内科（木曜日、第1・4土曜日）、婦人科（木曜日）
が対応

■主なサポート内容

1. 貧血やコンディショニング不良の相談
2. ホルモンバランスの管理・無月経・月経不順・月経困難症など月経に関連する問題の診断と対処・妊娠や出産を考慮したアスリートへのサポート
3. 栄養管理とトレーニング指導・アスリートの体調や競技に応じた栄養指導・トレーニングやコンディショニングのアドバイス
4. 骨密度低下・骨粗しょう症のリスクチェック

激しいトレーニングを継続的に続ける女性アスリートには、健康上のリスクがあると言われ、アメリカスポーツ医学会（ACSM）や国際オリンピック委員会（IOC）などから予防と対応の重要性が強調されています。アスリートは成長時期に応じて、様々な健康問題を抱えるケースがあり、より早期の介入が必要と考えられています。

■ 女性アスリートの三主徴

激しいトレーニングを続けている女性アスリートは以下のリスクがあります。

● 摂食障害の有無によらない利用可能エネルギー不足

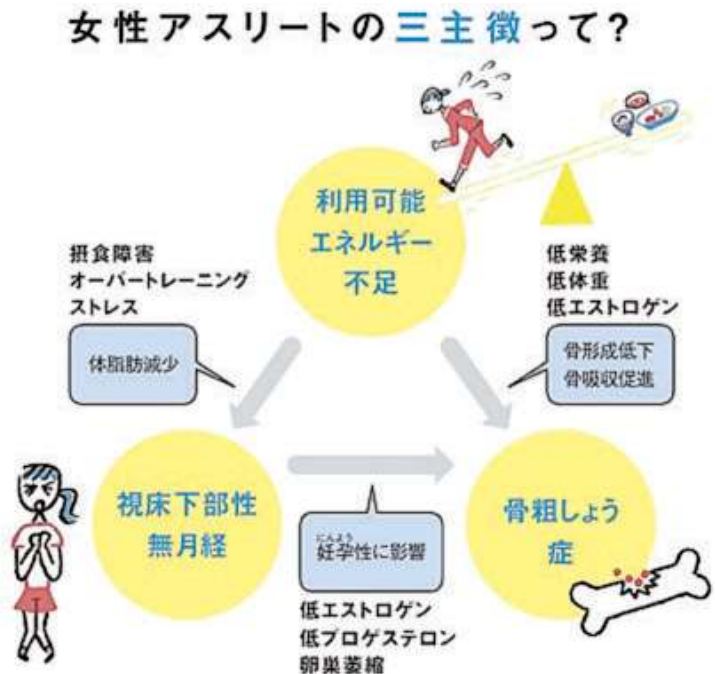
（運動によるエネルギー消費量に見合った食事からのエネルギー摂取が確保されていない状態）

● 視床下部性無月経

● 骨粗しょう症

これらのことを「女性アスリートの三主徴」といい、女性アスリートの健康管理やコンディショニングが重要な問題となっています。

若年女性アスリートを対象とした調査では、約 80%のアスリートがこの三主徴について知らないことが報告されています。



日本体育大学 女性アスリート競技力向上プロジェクト教育資料から転載

■ 三主徴の原因

三主徴の始まりはエネルギー不足と考えられています。スポーツにおける相対的エネルギー不足（relative energy deficiency in sport：REDs、RED-S）は、国際オリンピック委員会（International Olympic Committee：IOC）の専門委員会によって、利用可能エネルギー不足（low energy availability：LEA）の状態にあるアスリートの健康とパフォーマンスに悪影響が生じた状態を表す症候群として、平成 26 年に提唱されました。男性アスリートを含むすべてのアスリートにとって、利用可能エネルギー不足は発育・発達・代謝・心血管系・免疫など全身的な影響があり、結果的にはパフォーマンスを落としてしまうため、年齢や体格、競技種別、練習量に合わせて必要なエネルギーを摂取することが最も大切です。

女性では、この利用可能エネルギー不足の状態が長く続くと、下垂体からの黄体ホルモン、卵巢からの女性ホルモンや排卵が抑制され、初経発来遅延・月経不順・無月経が起こります。

成長期に栄養不足・ホルモン低値・過度なトレーニングを継続して行くと十分な骨量が得られず、骨密度低値・骨粗しょう症などの健康問題が起こります。

■ 三主徴を防ぐには？

発育・発達・十分な骨量獲得のためには「ジュニア期の適切な栄養管理（食事）」、「適切な負荷のトレーニング」が最も大切で、将来の障害予防に繋がると考えられます。しかし、アスリート自身が配慮するだけでは限界があります。指導側に馴染みがない場合やアスリート自身が発言しにくい場合もありますので、本人だけが管理するのではなく、指導者や家族の協力が必要不可欠になります。ケガやトレーニング以外にもさまざまなケアが必要になりますので、専門的知識のある医療機関やトレーナーを頼ることも選択肢のひとつです。

Q当外来の設立の経緯を教えてください

平成20年から岩手県スポーツ協会スポーツ医科学委員として、選手・指導者へ女性アスリートサポートの講習会・相談会などを開催してきました。岩手県内では、小児科・内科・婦人科の多くの先生方がアスリートの相談に対応しておられると思いますが、それでも、選手・保護者・指導者から「相談窓口が少ない」、「いつ・どのようなタイミングで・どの病院を受診したらよいかわからない」などのお声がありました。平成26年頃から、岩手医科大学婦人科の先生に個別相談に対応していただいたり、患者さんに附属病院のヘルスケア外来を紹介したりしていましたが、内科・婦人科間で連携しながら、女性アスリートのサポートができるというなど感じる場面が多くありました。諸先生方（総合診療医学講座 下沖教授、産婦人科学講座 馬場教授）のご尽力により内丸メディカルセンターでの外来を開始することが叶いました。



足澤 美樹 内科医師
(総合診療医学講座 非常勤医師)

Q受診される方はどのような悩みを持たれていますか？

「月経困難症」、「目標にする大会に向け、月経の時期を移動させたい」、「パフォーマンスが上がらず、貧血や女性ホルモンなどの異常がないか診てもらいたい」といった相談が寄せられています。受診された方には「日本体育大学 女性アスリート競技力向上委員会」、「日本スポーツ栄養協会」、「相談者の競技にかかわる協会、団体からの教育資材」などの情報提供も行っています。

Q女性アスリートのサポートにおいて、特に重要だと考える要素は何ですか？

アスリートのサポートやアドバイスは、年齢、競技種別、競技レベル、選手の目標により様々です。身体的な疾患の有無にかかわる診療はもちろんですが、相談者の多くは、健康問題を感じながらも体調管理に専念するのではなく、ハードな練習をこなし競技レベルを向上させたいという目標をもって受診されています。初診時には、相談者の生活歴や競技歴、今後の短期的・長期的目標を丁寧に伺うようにしています。

Q女性アスリートへメッセージ

無月経・揮発月経・月経困難症など月経にかかわる身体症状は個人差も大きく、「保護者やチームメイト・指導



足澤内科医師、**岩動ちず子**婦人科医師
(産婦人科学講座 助教)

者に相談しにくい」「受診したほうがいいのかどうかかわからない」「婦人科を受診したいと思っているが受診までのハードルが高いと感じる」といった悩みを抱えている選手が多くいます。また、指導者からも「選手に対して話題にしにくい内容である」との声を聴くことが多いです。選手のBMI・体脂肪率・栄養管理については年齢、競技種別や練習内容により対応が異なります。選手・保護者・指導者間でも、適切だと考える数値が異なる例も多く経験しています。当外来では、アスリート、パラアスリートに対し、栄養指導・栄養にかかわる資料や情報サイトについての情報提供を行っています。2名の女性医師が相談対応をしていますので、お気軽にご相談ください。

附属病院ヘルスケア外来でも女性アスリートを支援

月経に伴う諸症状や心身の揺らぎ、思春期の身体の変化から更年期障害等、女性ヘルスケア外来で診療を行っています。担当者は女性ヘルスケアアドバイザーや女性アスリート健康支援委員会講習受講医師で構成されています。漢方治療にも積極的に取り組み、手術後や悪性腫瘍に対する化学療法などの際に生じる副作用対策を目的とした診察も行い、内丸メディカルセンター女性アスリートサポート外来と連携しながら診療しています。

診療日 ● 毎週月、水の午後
(※予約制です) ● 第1土曜の午前



川村 花恵 婦人科医師
(産婦人科学講座 助教)

令和6年度 夏季の省エネ活動の実施結果について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。
令和6年6月から9月まで実施しました「夏季の省エネ活動」について、ご報告いたします。

■ 省エネ活動計画概要

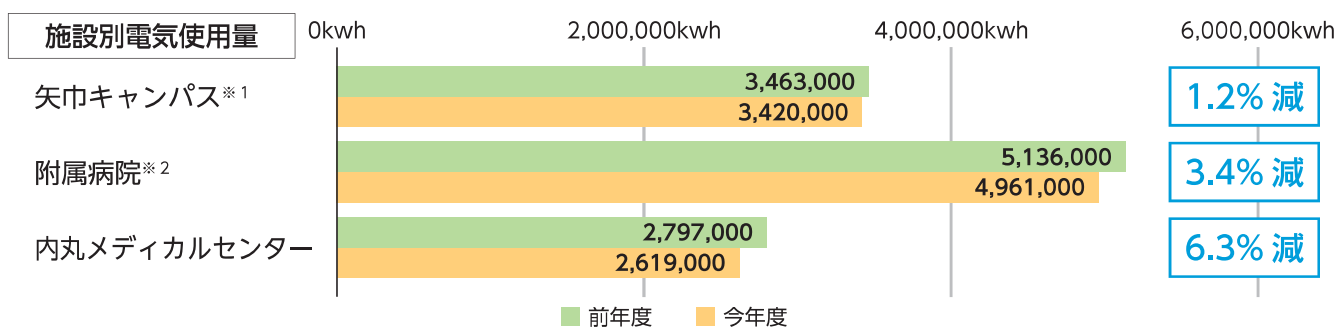
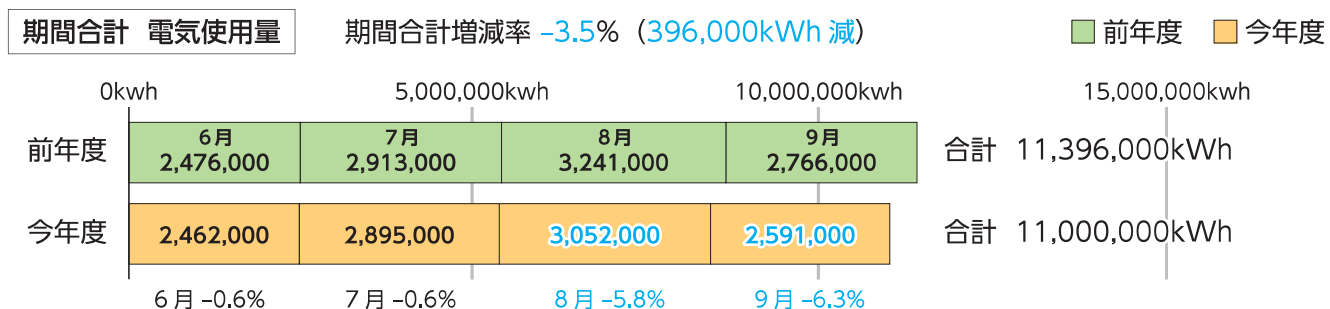
【実践期間】 令和6年6月1日から令和6年9月30日まで

【削減目標値】 電気使用量の多い主要3施設（矢巾キャンパス、附属病院、内丸メディカルセンター）の実施期間の合計電気使用量を前年度比で1%削減

【取り組み内容】 ①冷房設定温度及び空調運転時間の調整 ②不要な照明の消灯
③待機電力の低減 ④啓発ポスターの掲示
⑤施設利用状況の巡視
⑥クールビズの実施 令和6年5月1日から令和6年10月31日まで

■ 省エネ活動実施結果

《結果》 前年度比 3.5%削減（396,000kWh 減）



※1 対象施設：矢巾キャンパス校舎、マルチメディア教育研究棟、超高磁場先端MRI研究センター、動物研究センター

※2 対象施設：附属病院、エネルギーセンター

今夏は削減目標に掲げた「実施期間内の合計電気使用量を前年度比で1%削減」を達成することができました（前年度比3.5%削減）。昨年度と同様に、今年度も平年に比べ平均気温が高く推移しましたが、職員の皆さんに節電のご協力をいただいたことにより目標を超える結果となりました。

なお、環境省の報告によりますと、東北では気温が1℃上昇すると電力使用量が1%程度上昇するとあります。昨今の夏の気温傾向を考えますと、職員の皆様方には例年以上に省エネに取り組んでいただきました。

夏季の省エネ活動にご協力いただきまして、ありがとうございました。

「IBCまつり」にてがんセンターPR活動が行われました

9月7日（土）、8日（日）の2日間、滝沢市の岩手産業文化センターで開催された「IBCまつり」において、がんセンターのPR活動が行われました。

当日は、がんセンターのリーフレット配布などのPR活動に加え、がんに関する認知度アンケートを行い、500名を超える方々よりアンケートにご協力頂きました。

がんセンター事務局の担当者からは、「本学附属病院は、岩手県唯一の都道府県がん診療連携拠点病院に指定されているが、今回の調査で、がん診療連携拠点病院を知っていると答えた方は、全体の25%弱と、認知があまり進んでいないとの結果となった。がんセンターでは、引き続き、今後も県内広くPR活動を行いたいと考えている」との声がありました。



がんセンターのブースでPR活動を行う職員

防災週間に伴う防災訓練が行われました

9月20日（金）、矢巾キャンパスにおいて、防災週間に伴う防災訓練が行われました。毎年9月1日は防災の日、8月30日～9月5日は防災週間と中央防災会議（内閣総理大臣を長とし内閣府に事務局を置く会議）によって定められ、全国的に防災知識普及のための講演会や展示会、防災訓練が行われます。

当日は、矢巾キャンパス防火・防災管理者と主に事務局職員により構成される矢巾キャンパス自衛消防隊や看護部が参加し、火災想定訓練、地震体験訓練、一次救命処置訓練等が行われました。

訓練参加者は楽しい雰囲気の中、熱心に取り組み、災害対応への知識を深めていました。



屋外消火栓放水訓練

本学と岩手県立花巻北高校、合同会社 SPACE VALUE の3者において連携講座協定を結びました

9月26日（木）、本部棟4階大会議室において、本学と花巻北高校、花巻市の合同会社 SPACE VALUE の3者が連携講座協定を結びました。

宇宙をテーマに花巻を盛り上げる為、2022年にSPACE VALUEが「花巻地域活性化プロジェクトUP花巻」を企画しました。花巻北高校がこれに参画し、本学では薬科学講座構造生物学分野の阪本教授が中心となり、科学実験や構造生物学についての講義を行ってきました。生徒の科学、医療、社会問題への関心を高め、進路の選択肢を広げることを目的に協定が結ばれ、今後は本学教員による講義や大学施設での研究活動や就業体験等、幅広い分野で連携していきます。

本学が県内の高校と連携協定を結ぶのは初めての試みで、今後7年間継続されます。



佐々木信明校長、小笠原学長、安藤修一代表社員

岩手恵眼会総会が行われました

9月28日（土）、歯学部4階講堂において、岩手医大眼球銀行登録者の会である第67回岩手恵眼会総会が行われ、岩手恵眼会の明戸均会長をはじめ、岩手医大眼球銀行総裁の小笠原学長や技術主幹の黒坂教授など、多数の会員や教職員が参加しました。

総会では、はじめに献眼物故者に黙祷を捧げ、岩手医大眼球銀行の現状報告、岩手恵眼会の事業報告・決算報告が行われた後、小笠原学長による「本邦における脳死臓器移植の現状」と題された講演が行われました。



歯学部4階講堂で行われた総会

内丸メディカルセンター体験ツアーが行われました

9月28日(土)、内丸メディカルセンターにおいて、県内の小学生・中学生を対象にした第2回内丸メディカルセンター体験ツアーが行われました。このイベントは、内丸メディカルセンターの様々な業務や活動内容を紹介し、医療の現場や病院の仕事について、見学・体験を通じて興味・関心をもってもらうことを目的に開催し、小学1年生から中学1年生までの14名と保護者11名が参加しました。

当日は2コースに分かれて、リハビリテーション体験や放射線機器・検査機器の見学・操作体験、手術室の見学や歯みがき体験等が行われ、参加者からは「今回の体験ツアーを通じて、将来の(職業の)選択肢が増えた」「楽しかったので、今度は他のコースに参加してみたい」との感想が寄せられました。



CT 見学



手術室見学



歯石除去体験

大学院医学研究科秋季入学式が挙行されました

10月1日(火)、本部棟4階大会議室において、令和6年度大学院秋季入学式が挙行され、今年度は医学研究科に5名の入学生を迎えました。

式では、小笠原学長から「将来研究するための方法論を大学院時代に学び、これからの医師としての人生に役立ててほしい」と激励の言葉が送られました。



小笠原学長による入学許可宣言

動物慰霊祭が行われました

10月7日(月)、大堀記念講堂で、第57回動物慰霊祭が執り行われ、小笠原学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生が参列しました。

昨年度の教育及び研究に供された動物に対する黙祷の後、小笠原学長から慰霊のことが捧げられました。続いて学生を代表し薬学部4年生菅原春香さんから「動物実験を通して学んだ知識や技能を生かすことで、多くの命を救う医師、歯科医師、薬剤師になることこそが、実験動物にとっての最大の供養になると考えています。3Rの原則^{*}に基づいた適正な実施に努め、実験動物への感謝の心をもって臨むことを誓います」と慰霊のことがありました。

式終了後、参列者全員が慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。

※3Rの原則：①動物の苦痛の軽減(Refinement)、②使用数の減少(Reduction)、③代替法の活用(Replacement)



参列者による慰霊柱の参拝

医療安全シンポジウム 2024 が行われました

10月5日（土）、大堀記念講堂で医療安全シンポジウムが行われ、本学教職員・学生約500人（ウェブ参加者も含む）が参加しました。このシンポジウムは、2023年10月に本学附属病院で発生した医療事故を受けて、医療従事者としての自覚を再認識するとともに二度と同様の事故を起こさず、また、本医療事故を風化させないよう、大学全体として医療安全に係る意識の醸成を図ることを目的に行われました。

当日は、2003年に東京都内の病院の医療事故でご子息を亡くされた、「患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋」の理事長を務める豊田郁子氏の基調講演と小笠原学長・森野附属病院長・肥田医療安全管理部長・赤坂小児科診療科部長・佐藤看護部長・豊田氏によるパネルディスカッションが行われました。

本シンポジウムは毎年開催することとし、第1回目を終え参加した医療従事者と学生は、当院の医療安全の課題を共有し再発防止を誓いました。



大堀記念講堂の会場

■ 基調講演



「医療事故を経験した家族が医療者に望むこと —患者遺族が医療対話推進者になって—」

イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院
医療安全対策室 医療対話推進者

患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋 理事長 豊田 郁子 氏

■ パネルディスカッション

- 座 長 小笠原学長
- パネリスト 豊田 郁子 氏
森野附属病院長
肥田医療安全管理部長
赤坂小児科診療科部長
佐藤看護部長



ステージ上で医療安全について議論するパネリスト

小笠原学長を座長として進められたパネルディスカッションでは、今回の医療事故をはじめとする医療安全について、パネリストは各立場の見解を出し合いました。聴講していた学生から質疑や感想が述べられる等、会場全体を交えた医療安全を見つめ直す有意義な議論が行われました。

■ 閉会の挨拶



森野附属病院長

森野附属病院長から「医療安全は当院の最大のテーマである。昨年の医療事故に向き合い、今後の改善策に向き合うという文化がすでに芽生えている。この歩みを止めず、色々な部署や他の施設を経験してきた方の意見も大事にしながら常に自己点検をし、より良い病院づくりを進めていきたい。来年以降も医療安全に関するシンポジウムは開催する。このシンポジウムを医療人としての基礎を見つめ直す機会にしてほしい」と本シンポジウムの総括と今後の医療安全への取り組みに対する決意が述べられました。

表彰の栄誉

小児科学講座の齋藤 寛治 助教が 日本小児循環動態研究会・日本小児心筋疾患学会 合同学術集会において YIA セッション優秀賞を受賞しました

第43回日本小児循環動態研究会・第33回日本小児心筋疾患学会合同学術集会(令和6年10月、倉敷)において、一側肺動脈狭窄と健側高度肺高血圧症による右心不全症例に対し、肺動脈形成による右心不全治療を行った経験を報告いたしました。肺循環をWindkesselモデルに基づいて解析し、肺動脈の硬さとリザーバー特性から適切な血行動態的介入や術後管理指針を科学的に立案したことが高く評価され、YIAセッション優秀賞を受賞いたしました。

日本小児循環器学会分科会の中でも最も歴史ある本会は、時間を気にせず深くdiscussionすることが特徴であり、私たちの血行動態評価が高く評価され、多くの学術的交流が持ったことを大変嬉しく思います。解剖学的な多様性に加え、血行動態が時々刻々と変化する小児循環器疾患についての知識を深め、今後も第一線の循環管理を継続していけるよう、研鑽を積んでいきたいと思います。

最後に、受賞にあたりご指導いただいた小児循環器並びに心臓血管外科の先生方、日々の臨床に尽力くださっている生理検査・放射線技師の方々、病棟で患者さんを診てくださっているICU、小児病棟のスタッフの皆様には深く感謝申し上げます。



齋藤助教、齋木准教授

(文責：小児科学講座 助教 齋藤 寛治)

臨床薬学講座 臨床薬剤学分野の高橋 宏彰 助教が 2024 年度 日本医療薬学会 Postdoctoral Award を受賞しました



高橋助教、工藤教授

この度、日本医療薬学会より「Postdoctoral Award」を受賞しました。この賞は、医療薬学分野に関する研究課題で学位を取得した会員を対象に、優れた学業研究を修め将来性が期待できる者に授与されるものです。

学位論文題目は、「抗上皮成長因子受容体抗体薬に起因する皮膚障害の重篤化予測に関する研究」で、抗上皮成長因子受容体抗体薬による皮膚障害の重篤化に影響を及ぼすリスク因子の解析や皮膚バリア機能の指標となる経皮水分蒸散量を定量的に評価することで、皮膚障害重篤化を予測し、回避することを目的とした研究です。皮膚障害の重篤化を予測・回避することで、患者QOLの向上並びに治療の継続に繋がることが期待されます。

ご指導いただきました工藤教授、薬学部の先生方、附属病院薬剤部の先生方に深く感謝申し上げます。

(文責：臨床薬学講座 臨床薬剤学分野 助教 高橋 宏彰)

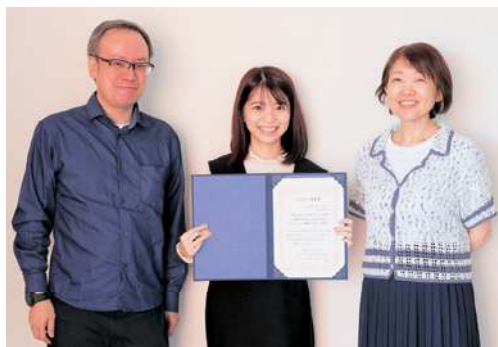
薬学部6年生の小宅 真由 さんが 日本薬理学会北部会においてポスター優秀発表賞を受賞しました

この度、薬学部6年生の小宅真由さんが第75回日本薬理学会北部会にて「食道がん高リスク因子となる口腔内レンサ球菌*Streptococcus anginosus*におけるプロトン輸送ATPaseの役割」を発表し、ポスター優秀発表賞を受賞しました。

*S. anginosus*は、口腔内レンサ球菌の一種で、食道がんの高リスク因子であることが近年明らかにされ注目されています。本研究では、同菌のプロトン輸送ATPase遺伝子欠損株を作製し、F型酵素は耐酸性に、A型酵素は塩基性・高塩濃度条件での増殖に重要であることを明らかにしました。これらの成果は、*S. anginosus*の感染によって引き起こされる疾患の予防・治療薬の開発につながると考えられます。

小宅さんは、5年生から本研究に携わり、薬局・病院実習も行いながら毎日精力的に実験に取り組み、本研究成果を得ました。今後は進学し、将来は研究者になることを目指しており、今後のますますの活躍を期待しています。

(文責：生物薬学講座機能生化学分野 准教授 關谷 瑞樹)



關谷准教授、小宅さん、中西教授

岩手医科大学募金状況報告

大学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第24回目のご芳名紹介です。(令和6年8月1日～令和6年9月30日)

■ 法人・団体等 (2件)

<80,000,000>

株式会社 こすかたサービス (岩手県紫波郡)

<300,000>

医療法人 泰三会 徳永整形外科 (岩手県紫波郡)

(順不同、敬称略)

■ 個人 (2件)

<ご芳名のみ>

小野寺 勲 (元役員)

田中 斎 (父母)

(順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	510	235,208,220
在 学 生 ご 父 母	394	95,380,000
役員・名誉教授	51	54,780,000
教 職 員	47	7,460,000
一 般	28	488,273,572
法 人 ・ 団 体	314	294,805,481
合 計	1,344	1,175,907,273

(令和2年9月1日～令和6年9月30日現在)

理事会報告 (9月定例ー9月30日開催)

1. 附属病院規程及び内丸メディカルセンター規程の一部改正について

両病院において臨床検査医学・感染症学講座教授の着任に伴い、診療科名称を臨床検査科から臨床検査・感染症科に変更する他、附属病院においては、経営改善の一環として集中治療系病棟を再編すること、一部の特殊診療部門におけるセンター長の選考者及び任命権者を規定化すること、成育連携支援加算の施設基準の要件となる成育連携チーム室をチーム医療部内に設置すること、内丸メディカルセンターにおいては、入院基本料の施設基準の要件となる褥瘡対策チーム室及び身体的拘束最小化チーム室をチーム医療部内に明記することとし、附属病院規程及び内丸メディカルセンター規程の一部を改正することを承認した。

(施行年月日 2024年10月1日)

2. 医療専門学校学則の一部改正について

近年の社会環境の変化に対応できる歯科衛生士を養成するため、継続的にカリキュラムの改変を行ってきたが、学生に教授する情報量並びに履修単位数が増加の一途を辿り、学生への過度な負担が生じていることから、現行の授業内容を再検討し、履修単位の適正化を図ることを目的として、医療専門学校学則の一部を改正することを承認した。

(施行年月日 2025年4月1日)

理事会報告 (10月定例ー10月28日開催)

1. 寄附行為の変更について

令和7年4月1日より改正私立学校法が施行されることに伴い、法対応に加え、その他所要に係る変更につ

いて承認し、この後開催された評議員会の審議により最終決定した。

(施行年月日 2025年4月1日)

お知らせ 歯学部及び薬学部向け学納金減免制度が導入されます

令和7年度より、歯学部及び薬学部において、新たな学納金減免制度が導入されます。「特待生制度」は、入学試験において極めて優秀な成績を収めた学生が対象で、この制度適用者は国立大学とほぼ同等の学費での進学が可能になります。「同窓会学納金減免制度」は、本学同窓会（圭陵会）の正会員の3親等以内の親族が入学する場合、授業料の50%を最大6年間減免するものです。

各制度、一定の条件を満たさないと減免が停止になる等の注意事項があります。また、申請方法や減免後の学納金の詳細は、岩手医科大学受験生サイト (https://www.imu-admission.jp/education/school_life/gl_gakunou_genmen/) に掲載していますのでそちらをご確認ください。



詳細はこちらから

各種制度の概要

■ 歯学部特待生制度

区 分	内 容	
特待生A	対 象	大学入学共通テスト利用選抜および医学部入学試験利用選抜合格者のうち、極めて成績が優秀であると認められた者で5名を限度
	減免額	初年度減免額 490 万円、次年度以降減免額 370 万円
特待生B	対 象	大学入学共通テスト利用選抜および医学部入学試験利用選抜合格者のうち、成績が優秀であると認められた者で 10 名を限度（特待生A該当者を除く）
	減免額	初年度減免額 400 万円、次年度以降減免額 280 万円

※本学歯学部を卒業後、5年間本学で研修を行うことを確約できる者に限る

■ 歯学部同窓生学納金減免制度

- 条 件 ・ 本学同窓会（圭陵会）の正会員の3親等以内の親族であること
・ 本学歯学部を卒業後、5年間本学で研修を行うことを確約できること

減免内容 授業料の2分の1を減免

■ 薬学部特待生制度

区 分	内 容	
特待生A	対 象	一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜合格者のうち、極めて成績が優秀であると認められた者で5名を限度
	減免額	初年度減免額 130 万円、次年度以降減免額 137 万円
特待生B	対 象	一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜合格者のうち、成績が優秀であると認められた者で 10 名を限度（特待生A該当者を除く）
	減免額	初年度減免額 65 万円、次年度以降減免額 72 万円

■ 薬学部同窓生学納金減免制度

- 条 件 本学同窓会（圭陵会）の正会員の3親等以内の親族であること
減免内容 授業料の2分の1を減免

Gブロック外来

Gブロック外来は、医師30名、看護師7名、医師事務作業補助者6名、事務員6名で構成されており、外科・血液腫瘍内科・臨床腫瘍科・緩和ケア科・看護外来（がん緩和・乳がん・リンパ浮腫・消化管ストーマ）のフリーアドレス診療を行なっています。

当院は、がん診療・生体肝移植・造血細胞移植の拠点病院となっており、県内外から移植やがん再発難治症例の患者さんを受け入れ、1日に200人前後の患者さんが受診されます。診断から治療まで、患者さんご家族の不安に寄り添いながら、安心・安全・安楽に医療が受けられるように支援しています。また、チーム医療のコーディネーターとしての役割を果たすために、医師・看護師・多職種・認定看護師と連携しながら、患者さんのより良い生活環境・QOLの向上を考慮した看護を提供しています。

当外来では、患者さん・ご家族を「中心に考える」ことを心がけながら、やさしさと思いやりのある看護をスタッフ一丸となり行っています。

（主任看護師 長坂 奈緒子）



西6A病棟

西6A病棟では、急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの患者さんに対して化学療法、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植が行われています。

造血幹細胞移植においては、週1回カンファレンスを開催し、医師（血液内科、精神科、歯科）・看護師・薬剤師・栄養士・PT・歯科衛生士などの多職種で情報交換を行い、移植前後にわたり患者さんをサポートしています。

無菌室で治療を受ける患者さんは、行動制限、外界からの隔離や孤独感に襲われることが多く、大きな不安やストレスを抱えています。そのため、私たちは少しでも快適に過ごせるように環境を整え患者さん、ご家族とのコミュニケーションを通して精神面での看護を大切に実践しています。患者さんご家

族の訴えを傾聴し、安心・安全な看護を提供できるよう努めています。今後も患者さんご家族の想いに寄り添い、やさしさとおもいやりを大切に日々の看護の質を高めていきます。

（主任看護師 畑 文子）



岩手医科大学報編集委員

祖父江 憲治	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池 いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田 留美子	

編集後記

いよいよ寒さが本格的になり、今年も残すところあと少しとなりました。2024年最後の大学報となりましたがいかがでしたでしょうか。今月号の特集は女性アスリートサポート外来の紹介でした。最近注目されている分野ですが本院でも専門の外来が開設されました。多くの女性が安心して競技に取り組めるようになるといいですね。

さて、2025年、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年と言われていそうです。ちょっとワクワクしますね。

（編集委員 菊池 いな子）

岩手医科大学報 第556号

発行年月日／令和6年11月30日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111（内線5452、5453）

FAX. 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



口腔内スキャナーによる光学印象法

● 口腔内スキャナーとは？

近年、デジタルテクノロジーの歯科治療への発展は目覚ましく、ここ数年で口腔内スキャナーを用いた光学印象法の臨床応用が飛躍的に拡大してきています。口腔内スキャナーは、患者さんの口腔内を直接撮影できる小型のカメラであり、「光」によって歯や周囲粘膜の表面形状を描出する手法で、支台歯、対合歯や咬合に関する情報を、リアルタイムで画像データとして記録することができます。

● 口腔内スキャナーの利点

1 印象体を消毒する必要がない。

採得されるものはデータだけですので、印象体を消毒する必要がなく、感染のリスクや、消毒液による印象精度への影響を避けられます。

2 開口量の少ない患者に有効である。

開口量が制限され、印象用トレーの口腔内への挿入が困難な場合でも、先端が小型である口腔内スキャナーは、口腔内への挿入が可能な場合があります。

3 嘔吐反射のある患者に有効である。

アルジネート印象材やシリコンゴム印象材による印象採得が苦手な患者さんは、比較的多く見受けられますが、口腔内スキャナーは、歯や口腔粘膜に触れる必要がなく、また印象材の硬化を待つ必要がないので、嘔吐反射を誘発しにくい利点があります。

● 実際にどのように治療が行われますか？

クラウンを想定した治療の場合、支台歯形成後に口腔内スキャナーを用いて光学印象を行います。支台歯とその周囲のスキャン（図1）、対合歯のスキャン、咬合時のスキャンを行います。その後、CADソフトウェアにてクラウンの形態を設計します。設計したクラウンのデータをミリングマシンに送り、ミリングマシンに装着されたセラミックスやジルコニア等の各種ブロックを削り出してクラウンを完成し、口腔内へ装着（図2）となります。



図1



図2